

Stage 1

距離：168.25km（実測）

獲得標高：2,313m（実測）

順位：95位（Top+23:34）

天候：晴れ

【以下レースレポート】



過去に出たどんなレースよりも観客の多さ、熱量を感じながらスタートラインへ

コースはこんな感じで、平坦基調の今大会としては、初日（皆フラッシュ）ということも相まって、最もきついステージになるのではという感じのミーティングを経てスタートしました。

平坦かと思えば、カテゴライズされた二つの登り以外にも、常に細かなアップダウンを繰り返す感じでした。

できる限りチームで固まって...なんていうお決まりのミーティングはありましたが、イネオスとユンボが完全にコントロールしていたお陰で、速いけど安定したレース展開でした。

ただ、イギリスの路面が過去に類を見ないほど悪く、穴だらけ、車止めだらけで、下りが相当怖かったです。

怖いだけならまだしも、増し締めしたはずのハンドルは大きく動き、サドルの角度も大きく変わって滑り台状態に....

なんとか自分の体重を使って、サドルだけは少しだけ角度を戻せたのですが、ここから先がかなりキツかったです。

序盤は脚もクルクル回って、久しぶりに自転車を前に進ませられている感覚があったのですが、サドル問題以降かなりキツイ感じに。

なんとかカテゴライズされた二つの山岳ポイントを集団で通過するも、その先のなんでもないところでドロップしてしまいました。

残り40km.....汗

身体が前に滑り落ちるのを防ぐために、背中の変なところが痛くなってきたので、少し脚を回しながらストレッチ、サドルも強引にさらに少しだけ角度を戻せたので、ここからゴールまで可能な限り全開で行くことに。

かなり調子も良かったので、ハンドルやサドルがズレた瞬間は泣きそうになりましたが、それはゴールを目指さない言い訳にはならないなと思い、とりあえずゴールを目指すことに。

1人になった途端に、当たり前ですがキツさは増し、心が折れそうになりながらではありますが、ペース配分を考えてゴールまで辿り着きました。

Stage2

距離：112.82km（実測）

獲得標高：910m（実測）

順位：71位（Top+00:00）

天候：晴れ

【以下レースレポート】



昨日とは打って変わって、今日から数日間は平坦ステージが続きます。

そんな平坦ステージ1日目の今日は、約110kmとショートステージなので、爆速の展開が予想されました。

相変わらず美しく、熱い熱狂の中をスタート

チームメイトのケーラムが乗った逃げが形成され、集団は落ち着きました。

落ち着いたと言っても、最後は台本通りのスプリントにまとめ上げたいワールドツアーがコントロールしているので、そこそこ速いスピードでレースが進みます。

カテゴライズされた登りは後半の三級山岳一つですが、昨日同様悪路+地味なアップダウン、コーナーの連続で、完全に楽とは言えない感じでレースが進みました。

今日は脚の感覚も昨日より良く、自転車も大きなトラブルは起きなかったので、落ち着いてレースを進めることができました。

速いからどこかで遅れるかもしれない...できるだけ付いていかねば...なんて思っているうちに残り25km地点

逃げを吸収してからは、スプリントをまとめたチームが強力に牽引を開始

チームのスプリンター、ジャコモの為にトムが位置取りを始めたので、何か手伝えることはないかと思いましたが、そもそも集団が殺気立っていてなかなか固まって走れない状況でした。

あっという間に残り5km

いや、距離の消化スピード速すぎない！？と思っているうちに、ゴール

集団でゴールとなりました。

ラスト5kmの平均スピードは61.1km/h

60km/hは計算すればわかりますが1kmを1分で進むスピードです。

Stage3

距離：169.76km（実測）

獲得標高：916（実測）

順位：92位（Top+09:19）

天候：晴れ

【以下レースレポート】



今日は昨日と同じ獲得標高で50km距離が長いコースでした。

ほぼ平坦なので、逃げをいかせてユンボがコントロールして、最後に捕まえてスプリントに持ち込む展開が予想されました。

相変わらずの熱狂の中をスタート

チームメイトのニコを含む逃げが速攻で決まり、あり得ないくらい前を蓋して押さえた後に、ある程度タイム差が付いた段階でユンボ筆頭にスプリントしたいチームがコントロールを開始。

スピードは速いけど、コントロールされているのでキツくはないペースでレースが進みました。

集団の人数が100人以下と少ないので、コントロールしているチームくらい前にいる以外は、どこもあまりキツさは変わらないので、集団の最後尾辺りでレースを消化。

激しくない時も、補給を忘れない様にして、順調に距離を消化していきました。

後半に入り、スプリントポイントを通過した辺りで、急にペースが上がり、流石に逃げを捕まえるの早すぎないか？なんて思っていた次の瞬間

横風.....

集団広報はぶちぶちに一撃でやられ、後ろにいた小山も前の選手の中切れを梅田と思ったら、その前にいた選手も中切れして、2回目は脚がなくドロップ.....

中切れした選手はチームカー使って戻っていく....

経験の差もありますが、やはりまだまだ実力が足りていないですね。

いつもなら心折れるところですが、横風に入る瞬間にペースを爆上げた主犯であろう選手（アシストとしては完璧）が遅れていくのを横目に中切れを埋めていたので、冷静に彼らとゴールを目指すことに。

知り合いの知り合い繋がり、Q36.5のチームカーも色々と情報をくれたので、とにかく後ろにいた2人を一旦待つことに。

ベローナとユンボの選手が遅れていた、3人で足を貯めながら、ゴールを目指しました。

絶対絶滅かと思われる瞬間でも、普段から面識があったり、面識ある人が話を通してくれていることで、助けて貰えることが多々あり、感謝しかありません。

Stage4

距離：169.26km（実測）

獲得標高：1,136m（実測）

順位：61位（Top+00:00）

天候：晴れ

【以下レースレポート】



ロビンフットの街からスタートと言うことで、ロビンフットの帽子が配られました。笑

今日も昨日と同じく平坦コース

三連勝中のユンボが、四勝目を目指してコントロールする予想でスタート

いつも通り一瞬で逃げが....決まらず、少しアタック合戦が長引く

最初の1時間は身体の動きが微妙で、少しキツく感じるも、慣れてくるだろうと我慢してアタック合戦を傍観

何名か飛び出して、ユンボがタイム差を与える為に抑えている中で、強引に飛び出す選手が数名

ユンボが徹底的に潰してなす術なしといった感じ。

タイム差が開き、落ち着いたから、いつも通りユンボがそこそこ早いペースで永遠とコントロール

後ろにいる分にはキツくないので有難い。

途中、ボトルを2連続で取ったかと思えば、取れない時もあり、その両方がEuroSport（並びにGCN）に抜かれていた模様。

昨日のカルロスとガビリアを映した映像もそうですが、自分も映ってるな～ってのは案外分かります。笑

ラスト30kmくらいからスプリントに向けて位置取りが激しくなってきました。

Stage2でスプリントに全く参加せずタイム差なしでゴールしましたが、今日は参加してみたいと思ったので、チームメイトと位置取り合戦に参戦

目の前にワウトやサムベネットがいたので、多分悪くないであろう位置で残り15kmから残り1km地点まで走れました。

が、ラスト1kmからコーナー連発のコース設定で、爆速かつ超危険な集団でうまく立ち回ることが出来ず、埋もれて61位でした。

ラスト10kmは平均速度約50km/hでした。

スピードといい、密集度といい、全くもってレベルが違いますが、今日もワクワク楽しく走ることが出来ました。

Stage5

距離：200.95km（実測）

獲得標高：1,220m（実測）

順位：27位（Top+00:03）

天候：晴れ

【以下レースレポート】



今大会最長の約200kmの本日

200kmあるので、早々に逃げをいかせて落ち着いたレースになるのでは....の予想に反して、アタック合戦が終わらない

それに加えてコーナー連続、道も悪いで、結構きつい感じでレースが進みました。

落ち着くまでの約45分間は平均速度49km/hと、コーナー連発のコースの割にはかなり速い感じでした。

チームメイトのケイラム含む逃げができてからは、お決まりの展開でユンボがコントロール

200kmもあるのに、地味に速い
場合によっては楽ではない感じでレースが進みました。

ほぼずっと一列棒状

スプリントにまとめたいワールドツアーチームの教科書通りのコントロールでレースが進んでいきます。

身体も時間が経つにつれて動き始めて、気がつけばラスト30km

位置取り合戦が始まりました。
速い、スピードが足りない。

ラスト10km過ぎたあたりのコーナーで落車発生
チームメイトも巻き込まれるも、ギリ回避

無線で、とにかく前をキープしろと（それが一番難しい）言われたので、スプリンターなチームメイトを探しつつ強引に位置をキープ

四連勝中のユニボの番手を取れたり、ジェットコースターの用に進む集団で、思ったより冷静に位置取りができました。

ラスト5kmは、平均57km/h、最高72km/hと馬鹿みたいに速いなか、ワウト選手が微妙に先行して逃げ切り、3秒後ろの集団スプリントで最後は27位でゴールしました。

スプリントとしてみれば惨敗ですが、スピードが足りてないと反省しつつ、位置取りではうまくいった点もあるので、また次チャレンジします。

何よりラスト5kmは楽しかったです。

Stage6

距離：156.10km（実測）

獲得標高：947m（実測）

順位：50位（Top+00:00）

天候：晴れ

【以下レースレポート】



昨日の200kmに続いて、今日は156kmでした。
ここまできると156kmが短く感じてきますね。

昨日と同じく海辺の街、いつも通りの熱狂の中をスタート。

流石に集団にも疲れの色が見え始めて、アタック合戦が一瞬で終わり、ユンボがメインでコントロールを開始。

自身も少し疲れを感じていたなので、かなり有難い展開....と思いきや、またしても逃げが決まった後に抜け出そうとする選手が現れて、その度にユンボやイネオスが潰しに.....ペースの上げ下げが地味にきつい

とにかくスプリントを楽しむにはスプリントまでの99%は我慢するしかないので、身体は少しキツかったですが、脚を回して身体が動き始めるのを待ちました。

これもいつも通りですが、1時間くらい苦しんでると身体は動き始めました。

そうこうしている間にラスト30km（いや30kmって結構あるよな...とふと我に帰る）

ここからは毎回あっという間なのですが、今回は身体が少し疲れていたもので、やや長く感じました。

落車もチラホラ起きていたので、疲れからくる集中力の欠如だけは避けたいと、いつもより集中してラスト30kmに挑みました。

集団が小さいのもあって、あまり早い段階から前に居続けると逆に脚を使うので、残り10kmまでは集団広報で脚を回しました。

さて、最後の10kmを楽しむぞ〜と位置どりを開始
集団が結構ナーバスながらも、5km地点通過

速い、54-11で足りない...と思いながらラスト3km、2kmと一瞬で過ぎていきます。

ラスト1kmの看板に差し掛かるうとしたタイミングで集団で落車発生

モビスターとDSMが絡んで大きめの落車に。

別のモビスターの選手が目の前で飛んでいき、自分も後数センチのところギリギリ止まりました。

結局落車によってスプリントには参加できず、そのまま50位でゴールとなりました。

運もありますが、優勝争いをしていた選手たちは落車に関係なく優勝争いをしていたと思うので、位置どりの悪さが原因と反省しています。

Stage7

【以下レースレポート】



本日は、最初に2km10%の峠があり、そこで遅れたスプリンター達とゴールを目指す作戦

予想通り、数少ないですが、遅れる選手がおり、その選手と一緒にゴールを...

ワールドツアー選手は遅れた選手1人につき一台のチームカーがサポートに入り、その後ろでツキイチすることもできず、早々に単独に

流石に遅れるのが早すぎて、そのまま回収されてリタイアとなりました。

実力不足が如実に出てしまいました。

とにかく登りはすぐにどうにかできる問題ではないので、今年の冬しっかり時間をかけて改善しようと思います。